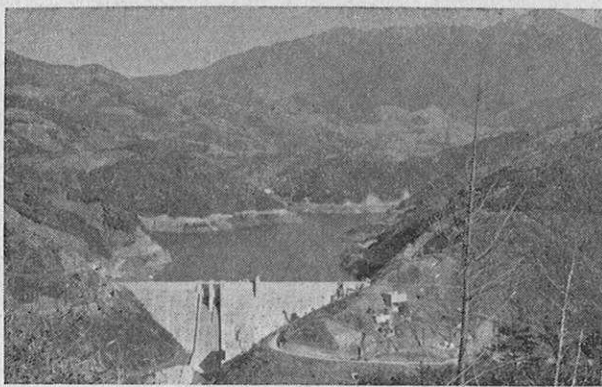


百太郎溝の一部はすでにこのように……

「モゴ」といわれるガラス質の堅い層があつて、作物根の發育を阻害するので生産は低く、干害をうけやすい状況である。また、周辺にはたくさんある村落があつて畑地が多いが、これらも前述のように特殊な土壌条件と水利に恵まれず、その生産性も低い。

計画のあらまし

ひとくちに言えば、球磨南部地区土地改良事業とは市房ダムを用水源として、球磨川の南岸に帯状に拡がった水田二千



球磨盆地をうるおす市房ダム

開拓地や畑地では、水の導入で土壌の改良や干害の防止をねらい、あるいはまた、飼料作物を植えて酪農を推進するなどいろいろのねらいをもつており、総合効果はただ米だけではないあらわせない。工事の概略をのべると、幸野溝では市房第二発電所の分水地点から延長一万一千二百七十七呎にわたつて、水路をコンクリート改修し、従来の漂流との平面交叉は「水路橋」に架け替え、さらにあらたに末端から開拓地に水を導くためのべ一万三千五百呎におよぶ水路も新しく設ける。

百太郎溝では、取入口の改修から始め、水路延長一万六千二百七十四呎にわたつてコンクリートで改修する。

また、免田川との交差地点では災害を防ぐために、河床に深く埋めたサイフォンで横断することにした。この両溝事業の効果を見ると、米に換算すれば水田で年間千八百九十トン（七千二百六十石）開拓地と畑地で千九百七十一トン（二万三千四百四十石）計三千六百一十トン（二万七千六百六十石）となり、さらに、このほか水路の維持管理費の節減、漏水防止、洪水被害による労力節減等多くの効果が期待される。

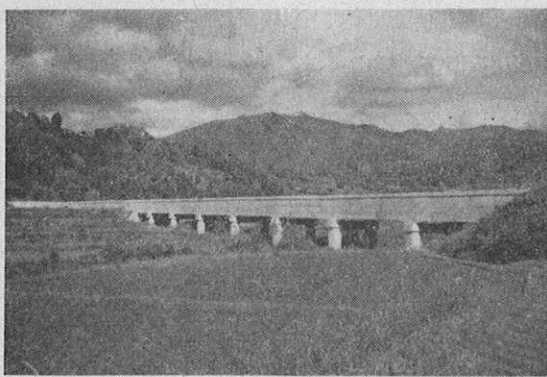
これらの事業に要する事業費は七億一千二百三十二万円となつてゐる。

今後の見とおしと問題点

この球磨南部地区土地改良事業は、球磨川総合開発の一環として、昭和三十三年から事業に着手し、昭和三十五年には、市房ダムも完成して、洪水調節・発電の効果も十分發揮しているが、農業部門は、いろいろの調整を要しスタートが

遅れたもので、現在工事の途中にあるが、前途洋々たるものがある。幸いにして、着工以来地元の理解と、熱心な努力とによつて、事業は着々と進み、昭和三十六年度までに、幹線水路は事業費において約四〇％に当る二億八千二百九十一万八千円を終了する予定で、幹線水路全体の完了は、一応昭和四十二年を予定している。

関係者の中でも、伝統のある幸野溝・百太郎溝関係者は別として、開拓地を中心とする中球磨の関係者は、現在の営農状況から考えて、その生産も低いので、分担金の負担について現在相当苦勞されているので、関係町村、その他において理解ある対策をたて、円満なる事業の推進が行われることを期待するものである。



珍しい牧良川の水路橋……この上を用水が流れていく



自動耕耘機競技会スナツブ

農業構造改善事業促進対策

1. 「農業構造改善」というもの
2. この対策のおいたち
3. めざす1日 1,000円農業
4. 適地適産、主産地形成をテコとして
5. 1指定地当り1億1千万円
6. むすび